

雪氷研究富山大会に関するアンケート調査の報告

中央農業総合研究センター北陸研究センター

(雪氷研究富山大会実行委員会, (社)日本雪氷学会事業委員会) 横山宏太郎

1. はじめに

2007 年度日本雪氷学会全国大会は, 旭川 (2005 年度), 秋田 (2006 年度) に続いて, 日本雪工学会と連携して雪氷研究富山大会として実施された. これからの大会をよりよい形で実施するため, 特に連携開催も 3 回目となり, これからどのように連携を進めていくのか, 方向を定める必要がある. 参加者の意見を求めるアンケートを実施した. 大会の報告はすでになされている (島田ら, 2008) ので, ここではアンケートの結果を簡単に報告する.

これまで 2 回の連携開催時にはそれぞれアンケートが行われている (大槻, 2006; 佐藤, 2007). 今回のアンケートは, 秋田大会のアンケートを参考に, ほぼ同じ内容にして, 過去 4 年間の大会参加歴を新たに質問項目に加えた. アンケート回収枚数は 84 枚, 全参加者に対する回収率は 18% であった. 以下にその概略を報告するが, 割合を示す数字は, (選択数/84) × 100 (%) である. また, 日本雪工学会を「雪工学会」, (社)日本雪氷学会を「雪氷学会」と略記する.

2. 調査結果

まず参加者 (回答者) に関する設問の結果を示す.

Q7 あなたの所属学会をお答え下さい (複数回答可).	回答率%
A. 日本雪工学会	6.0
B. 日本雪氷学会	67.9
日本雪工学会と日本雪氷学会双方	10.7
C. いずれにも所属していない	13.1
無回答	2.4

秋田大会に比べると, 雪氷学会のみの会員が増え, 雪工学会と双方の会員である人が減った.

Q9 あなたのお勤め先をお答え下さい.	回答率%
A. 大学・公立研究所	47.6
B. 民間・コンサルタント関係	23.8
C. 行政関係機関	3.6
D. 学生	13.1
E. その他	3.6
無回答	8.3

秋田大会とほぼ同様である.

Q8 あなたのお住まいをお答えください.		
雪氷学会の支部の区分 にあてはめると	人数	%
北海道	22	26.2
東北	5	6.0
北信越	22	26.2
関東以西	33	39.3
無回答	2	2.4

関東以西からの参加者が, 秋田大会の 24% に比べ, 多かった. 東北が少なかった.

Q10 最近あなたが参加された大会をお答えください (人数).			
年度	雪工学会	雪氷学会	合同開催
2003	8	38	-
2004	10	41	-
2005	-	-	46
2006	-	-	46

最近 4 年間の 参加回数	人数	備考
6 回	4	
5 回	3	
4 回	20	うち 17 人は雪氷と 合同で 4 回
3 回	8	
2 回	16	
1 回	14	
0 回	19	

4 年間で 2 回以上参加した人の割合は約 60% である.

以下は大会の内容についての設問である.

Q1 今回の合同開催という取り組みをどう思いますか. その理由と合わせてお答え下さい.	回答率%
A. 非常に良かった	13.1
B. 良かった	45.2
C. どちらでもない	38.1
D. 悪かった	2.4
E. 非常に悪かった	0
無効回答 = 1 人	1.2

Q2 今回のような合同開催を来年度以降も継続することについてどう思いますか.	回答率%
A. 賛成	57.1
B. 開催内容を見直す条件で賛成	36.9
C. 反対	2.4
無回答	3.6

Q3 Q2で「B」と答えた方にお聞きします. どのような見直しが必要と考えますか (複数回答可).	回答率%
A. 合同セッションの数を増やす	20.2
B. 予稿集を合冊とする	14.3
C. 同じ会場で会期を一致させて実施する (参加日程の短縮)	22.6
D. 参加登録を両学会共通とし, 参加料を統一する	21.4
E. 懇親会を別々にする	1.2
F. シンポジウム類は別々に設ける	1.2
G. わからない	0

Q5 9月下旬という開催時期についてどう思いますか.	回答率%
A. はやい	20.2
B. ちょうど良い	71.4
C. おそい	3.6
無回答	4.8

合同開催については肯定的意見が大半であるが, 合同の内容については見直しの要望が様々に上げられている. 合同の是非, 必要な見直しについて, 秋田大会とほぼ同様な結果であった.

ほとんどの意見は, 連携の度合いをさらに強め, 真の合同開催に近づこうとする考えによるものということができよう.

3. まとめ

意見を記述する部分にも多くの回答をいただいた. ただしその内容は秋田大会時に報告されたものとはほぼ同様であったため, ここに改めて記すことはせず, 大会運営の参考として使わせていただくこととしたい.

複数の方から, 将来の両学会の合同を希望する意見が寄せられた. 今後は会員にとってよりメリットのあるあり方を検討していく必要があると感じた.

最後になりましたが, 貴重な時間を割いてアンケートにご回答いただいた皆様にあつく御礼申し上げます.

文 献

- 大槻政哉, 2006: 2005 年度日本雪氷学会全国大会報告. 雪氷, **68**, 71-76.
- 佐藤 威, 2007: 雪氷研究秋田大会におけるアンケート調査の結果から. 雪氷, **69**, 318-321.
- 島田亙・川田邦夫・飯田 肇・石坂雅昭, 2008: 2007 年度日本雪氷学会全国大会報告. 雪氷, **70**, 55-59.
- (2008 年 2 月 4 日受付)